

宮城県中学校総合体育大会軟式野球競技 特別規定

【選手登録】

- 1 チームの編成は、監督（引率者）1名、選手9名以上18名以内とする。女子の参加も認める。この他に部長、コーチとして2名追加することができる。また、スコアラーは生徒に限り1名登録できる。なお、登録された者のみベンチに入ることができる。
- 2 1において、中学校では、監督・部長は当該校の校長・教員・部活動指導員とする。コーチは当該校の教職員・部活動指導員もしくは外部コーチとする。外部コーチは1名までとし、当該校長が認めた者でその証明書を申込時に提出する。
- 3 1において、地域クラブでは、継続的に活動し、宮城県野球連盟に加盟していること。監督1名、コーチ2名以内は、そのチームを継続的に指導している者とする。そして、ベンチ入りする監督、コーチのうち1名は、日本中学校体育連盟軟式野球競技部参加規定細則に定める指導者資格を有すること。また、大会期間中は審判員資格（一般財団法人全日本野球協会アマチュア野球規則委員会公認3級審判員）を持つ者を1名以上帯同させること。指導者資格及び審判員資格のコピーを申込時に提出する。
- 4 中学硬式野球団体へ登録している選手の登録は認めない。同様に、学生及び他団体（プロ、大学、高野連、中学硬式野球リーグ等）に所属する者は、コーチとして登録できない。
- 5 登録選手・監督等の変更は、理由を付記した変更願書を提出する。また、監督がやむを得ない事情により一部の日程で引率、ベンチ入りすることができない場合は、理由書の提出によって、当該校教員である部長またはコーチが代理を務めることができる。なお、変更願書及び理由書は任意様式（職印必須）とし、監督会議の際に提出すること。

【競技を行うにあたって】

- 6 正式試合は、通常7イニングから成る。5回（4回1／2）以降、7点差以上の差がある時はコールドゲームを適用する。また、試合時間の制限は行わない。
- 7 暗黒・降雨等で7回までイニングが進まなくても、5回（4回1／2）を終了すればゲームは成立する。暗黒・降雨等で5回以前に中止になった場合、また5回を過ぎ同点で試合が中止の場合は、翌日の第1試合に先立って特別継続試合を行う。決勝戦も同様とする。
- 8 天候等による大会実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定する。その際、会場を変更したり、ナイターで試合を行ったりする場合もある。
- 9 本実施要項に定められていない事項が生じた場合は、大会役員が協議の上、宮城県中学校体育連盟軟式野球専門部会長の権限により処理する。

【試合開始前】

- 10 監督に引率されたチームは、試合開始予定時刻60分前までに会場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になっても到着せず、何ら連絡がない場合は棄権とみなす。交通事情による到着遅延の場合は、大会本部で協議し、決定する。
- 11 打順表の提出は、その日の第1試合は試合開始予定時刻の40分前まで、第2試合以降は試合開始予定時刻の60分前までとする。ただし、第1試合の前に開始式等がある場合は、本部で決定し連絡する。監督と主将は、指定様式の打順表を5部（球審・対戦相手・大会本部・放送席・自チーム控え）持参し、登録原簿と照合ののち、球審立ち会いのもと攻守を決定する。

- 12 シートノックについては以下の通りとする。
 - (1) 試合当日の最初の試合のみとするが、球場が変わった場合はこの限りでない。
 - (2) 後攻側から始め、時間は5分以内とする。状況によっては短縮または省略することもある。
 - (3) 監督・コーチ・登録選手の他に、3名以内の補助員(当該チーム選手)をつけて行うことができる。
 - (4) 相手チームがシートノックをしている時はベンチから出ない。ただし、先発投手のブルペンでの投球練習は認める。
 - (5) マウンドは使用しない。
 - (6) シートノックを希望しないチームは、攻守決定時に本部へ伝える。
- 13 ベンチ入れ替わり時、シートノックの準備ができるまでの時間に、ベンチ前でキャッチボールや素振り、準備運動をすることは認める。
- 14 試合開始予定時刻前でも、前の試合が早く終了した場合、次の試合開始時刻を早める場合がある。その際、開始予定時刻より30分以上は早めない。

【試合中】

- 15 ベンチ内での指示用メガホン使用は、監督に限る。
- 16 電子機器類（携帯電話・パソコン等）の使用は、電子スコア記録用としても認めない。
- 17 選手以外は、コーチスボックスに入ることはできない。
- 18 投手（救援投手を含む）の準備投球数は初回に限り7球以内（1分を限度）が許される。次回からは3球以内とする。また、正捕手の装具準備時において残り2球を過ぎる場合、予備捕手は立って捕球する。
- 19 熱中症予防のため、3回と5回終了時に3分間の給水タイムを設ける。また、5回終了時及びタイブレーク開始前にグラウンド整備を行う。なお、熱中症警戒アラートが発表された場合は、2回、4回、6回裏終了時に給水タイムを設け、4回終了時及びタイブレーク開始前にグラウンド整備を行う。
- 20 監督が投手のところに行く回数について「投手のところに行く」とは、監督がタイムをとってグラウンドに出て投手または投手を含む野手が集まっているところで指示を与える状態を指す。伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところに行かせた場合、投手の方からファールラインを越えて監督の指示を受けた場合も同じとする。
- 21 ボールデッドで改めてタイムをとる必要がない状態の時も、[20]と同じ行為であれば回数に数える。

【その他】

- 22 テーピングをする場合、露出する部分については肌の色に近いものを用いる。
- 23 同一日に続けて試合を行う場合、試合終了50分後を目安に次の試合を開始する。打順表の提出は、試合開始予定時刻の20分前までとする。
- 24 投球数制限について、競技者必携(少年部)に定めのある「1週間350球以内」は適用しない。
- 25 DH制は適用しない。